市民ネットワーク

千葉市議会 2022 年第 3 回定例会（2022 年 9 月 8 日～ 10 月 6 日）

# 松井かよ子の市議会報告

## 国のコロナ対策予算を活用し、黒字を確保

### 千葉市 2021 年度決算審査

2021 年度は新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まり、国の財源を活用した 14 回の補正予算が組まれ、一般会計予算の財政規模は拡大しました。ただし、市税や地方消費税が当初よりも増収となったこと、歳出において効率的な予算執行に努めたことから実質収支は約 30 億円の黒字となりました。このほか、市民に寄り添った事業が各種施策に見られたことから、決算を認定しました。

今後は新市庁舎の整備、新病院の建設、区役所など政令市移行期に建てられた施設の大規模改修の支出が増えていきます。

将来世代への負担を極力減らしていくためにも、市民に財政状況を説明し、市のお金の使い方について、市民とともに検討していくことを求めました。

**一般会計決算**

| | |
|---|---|
| 歳出 | 5091 億 1200 万円 |
| 歳入 | 5026 億 7000 万円 |
| 実質収支 | 29 億 7900 万円 |

## 決算審査特別委員会 教育未来分科会 報告

**こどもの安全を守る観点から質問しました。**

### 園バスへの置き去り 対策への助成を

イメージイラスト

緊急点検を実施した結果、市内ではこども園など 37 施設で園バスによる送迎が行われていました（幼稚園は県が実施のため未把握）。ケガなどの事故については市に報告がありますが、園バスへの置き去りは昨年度報告なしとのこと。今後、すべての送迎バスに安全が確認できる装置をつけられるよう、費用助成を求めました。

### 児童生徒を暴力から守る取り組み 体罰根絶の徹底を

教育委員会の『懲戒処分の指針』では、教員が児童生徒の胸ぐらをつかむなどの精神的な恐怖感を与えても、「体罰」ではなく「不適切な指導」とされています。どのような行為が体罰にあたるのか具体例を記し、指針を見直すよう求めました。

## PICK UP 市民ネットワークが評価した主な事業

### 生活自立・仕事相談センターの体制強化

生活や仕事の「お困りごと」について、相談支援員が一緒に考え、解決プランを作成します。今年 9 月、美浜保健福祉センター内にも設置されました。体制の強化を評価しました。

### 女性のためのつながりサポート事業

コロナ禍で、経済困窮、孤独・孤立など悩みを抱えた女性が、社会とつながるための支援事業です。LINE、メール、電話による相談、居場所づくり、生理用品の提供などを評価しました。

### おくやみコーナーの設置

亡くなられた方の家族が、何度も役所に行ったり、問い合わせたりすることがないよう、必要な書類の種類や数、手続き方法を教えてくれます。今年度から美浜区役所にも設置されました。

**2022 年第 4 回定例会**

**11 月 29 日（火）から 12 月 16 日（金）の予定**

**詳しくは千葉市議会 HP をご覧ください。**

## 一般質問から

### 清掃工場の見学で大人も楽しみながら学べるように！

本市では 2 つの清掃工場（新港、北）で工場見学を実施しており、小学校 4 年生の社会科見学が 95%を占めています。

京都市南部クリーンセンターには環境教育施設「さすてな京都」が併設されていて、煙突には京都市街が一望できる展望室が設けられ、足湯やビオトープもあり、児童だけでなく、大人も楽しめる施設となっています。

2026 年 4 月に稼働予定の新清掃工場（北谷津）でも、プログラムの検討をするなどして、市民が広く環境について学べるよう要望しました。

さすてな京都の外観とビオトープ

### 両親が離婚しても、こどもが別居親や祖父母と交流を続けられるように

兵庫県明石市の面会交流チラシ

市では 2018 年以降、弁護士による養育費相談や養育費の確保についての助成事業を拡充しています。一方、別居親との面会交流については、県の制度を紹介しているだけで、市独自の支援策はありません。

兵庫県明石市では、面会交流のコーディネートを市が行い、面会場所として市の施設を提供しています。

こどもにとって安定した成育環境を保障できるよう、面会交流支援事業の拡充を求めました。

### 観光地づくりは地元から マイクロツーリズムの取り組み

地元の人たちが繰り返し訪問し、利用できる場所を整備することは、持続可能で魅力的な観光地づくりにつながります。まずは、花見川サイクリングコースの看板や表示を修繕するなど、市民向けの整備を着実に進めるよう要望しました。

文字が消えて読めない表示 ➡

### 通学路の安全対策は住宅開発前から！

市では 2014 年に策定した「千葉市通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路の点検と安全対策を実施しています。地元からは信号機や横断歩道の設置、交通規制の要望が寄せられますが、信号機は「1 時間当たり 300 台以上の車両が通るか、近くの交差点との一定の間隔があるか」、横断歩道は「歩行者の待機場所があるか」、交通規制は「一方通行や速度制限などに地域住民の同意が得られるか」などを要件としているそうです。

宅地ぎりぎりまで住宅開発が行われる場合、開発後に地元から横断歩道の要望があっても、要件が満たせず見送られることがあるそうです。

戸建住宅やマンションの開発時に通学路として想定される場所について、宅地の一部を待機場所として提供いただくなど、事業者に申し入れをすること、そして、安全対策済とされたところでも、実際は学校や地域が引き続き課題としている通学路があることを、教育委員会でも把握するよう要望しました。

**市民ネットワーク 市議会議員**

市民ネットワーク会派の HP で
質問・討論内容がご覧になれます。
http://shimin-network.jp/

山田京子（若葉区） 松井かよ子 岩﨑明子（若葉区）